こうすれば作文が書けるようになる

田口貴春
（岡山D&Lスクール代表）

１．発達障がい児の現状

**　発達障がいをおもちの人の離職率はかなり高いものがあります。ある調査によると**

就職後1年時点の定着率は、発達障がい 71.5%である

　残念ながら、私の指導させていただいた中にも多くの方が離職を経験しておられます。

　それには様々な理由が考えられますが、ご両親のお話を伺う中で心に残っていることばがあります。

　それは

「上司や同僚とのコミュニケーションがうまくとれないでやめざるを得なくなった」

です。

　どうにかしたいと思っていましたが、私としては「作文指導」をしていくのが有効ではないのかという結論に達しました。

ここでは、この４月に高校生になった子どもさんの約６年にわたって指導してきた「作文指導」をメインにお話をしていきます。

最初に指導を始めたとき

◯言葉の発達に課題があり

◯国語の文章題は読むのがやっと

◯計算もかけ算がなんとかできる

◯ 算数の文章題も足し算引き算がやっとできる

中学校３年生でのようす

国語

◯４年生５年生レベルの熟語を使って文が書ける

◯作文もかなり書けるようになってきた

◯国語の読み小学校６年生の分が難しいながらも筋は追って得いけている

算数

○計算は四則計算はできる
○わり算も４桁÷２桁はできる
○内包量の文章題（単位あたりの量、時速、濃度）簡単なものはできる
○面積、体積の基礎は理解できている
○比の計算もできる

作文指導の成果

　中２の時の職業体験の時
礼状を自分の力だけで書いた。

先生もすごく褒めてくれた

（一般的には先生が書いてくれたひな形の例文の中から選んで書いている）

２．発達障がい児のつまずき

①学習のつまずき

具体的には

1.語彙の少なさ

2.国語で読めてもたどたどしくしか読めない

3.数は数えられても数の大きさが理解できていない

4.計算はできても文章題ができない

②社会性のつまずき

具体的には

1.相手の求めていることができない

　相手から見ると無視されているように思える

2.会話が成り立たない

　突然話しかけたり、関係のない話をしゃべりだしたりして聞き手が理解できないことが多くある。

3.順序立てて話せない

　かなり以前の過去の出来事を昨日のことのように表現する

　理由と結論との整合性がない

　助詞をうまく使えない

３．発達障がい児の特徴

①行動面における特徴

落ち着きがない

姿勢を保つのが難しい

音や光に敏感

予想もしないことが起こるとパニックになる

感情が爆発して暴力的になる

②言語面での特徴

言葉の遅れ

意思疎通が困難

結論だけを言う

説得させる話し方ができない

相手の考え方に柔軟に対応できない

一方的に話す

相手の感情を害することを言ってしまう

４．２つの特徴の起きる原因

発達のアンバランス

固執性

（一つのものごとにこだわって、容易に変えられないこと。いつまでも同じことを続けることもある。）

空間認知の弱さ

（物の位置、形状、大きさ、方向や位置関係を正確に認識する能力です。私の経験から言うとまたこれが弱いと時間的な感覚も弱くなる傾向になると思います。）

言語発達の遅れ

（語彙の少なさ、稚拙な表現力）

５．なぜ作文指導を行うのか

発達障がい児の問題点の改善に寄与する

自分の思いを分かる形で表す

自分の持っている情報を正確に伝える

コミュニケーションを円滑にとることで社会性を向上させる。